

公表	富士市立こども発達センターみはら園における自己評価総括表
----	------------------------------

○事業所名	富士市立こども発達センターみはら園			
○保護者評価実施期間	令和6年10月11日 ～ 令和6年11月8日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	55	(回答者数)	47
○従業者評価実施期間	令和6年10月1日 ～ 令和6年10月9日			
○従業者評価有効回答数	(対象クラス数)	7	(回答クラス数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年11月13日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個々に合わせた支援を、個別支援計画に沿って、保育士、指導員、看護師以外に、PT、OT、ST、心理判定員等多職種で実施している。	・児童発達支援管理責任者と担任でカンファを行い、具体的な支援計画を作成している。 ・専門職がクラス保育に入り、助言を受けている。 ・職員研修や保護者グループワークで専門職から講義を受けている。 ・相談支援専門員もセンター内にいるため、サービス担当者会議を定期的に関係職員全員で行っている。	・職員間の連携を深め、ケース会議等を行っていく。 ・担任しているクラス以外のクラス保育を参観する機会を設け、他クラスの支援を知り、クラス保育に活かしていく。 ・他事業所を利用しているこどもも増えているので、他の事業所と情報共有する機会を設けていく。
2	家庭と連携して支援している。	・各家庭と月に1回面談を行い、情報共有を密に行っている。 また、相談があった場合には、必要に応じて担任以外に園長、主任、相談支援専門員等につなげ、園全体で支援している。 ・保護者会活動を支援している。 ・保護者グループワークを年間を通して実施している。	・保護者からの質問、相談にどの職員も共通した情報を伝えられるようにする。
3	活動スペースが確保されている。	・クラス間で毎朝活動内容について相談し、色々な活動ができるようにしている。 ・広見公園が隣接していて、安全な公園内で散歩を実施できるため、クラスや体力、歩行力別のグループで散歩に取り組んでいる。	・各クラスで遊びがマンネリ化しないように研修を実施し、遊びの展開を図っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域とのつながりが少ない。	・慣れない環境が苦手なこどもが多く、いつもと違う活動はこどもたちを不安にさせてしまうので、配慮が必要。	・親子参加保育や交流保育など今までの活動を継続していく。 ・今年度よりこどもまつりに地域の就労支援事業所にキッチンカーの出店を依頼したが、幼児の施設だけでなく地域の事業所とのつながりも今後検討していく。
2	きょうだい児への支援がない。	・在園児のきょうだいの年齢が低く、きょうだいへの直接的な支援が難しい。	・保護者グループワークできょうだい児がいる家庭を対象に座談会を行うなど来年度の計画に入れていく。 ・行事やグループワーク等の見直しを行い、きょうだい児が参加できる工夫について検討していく。

第三者からの意見（R6.11.12 実施）
・とてもきめ細かく支援されていることが伝わってきた。 ・個別支援計画を立てて、一人一人をよくみて支援されている。 ・幼児期は保護者の方も大変な時期ではあるが、職員が大変な時期を支えてくれていると思う。よく見てくれている。 ・これだけ利用児や家族の支援をやっている中で、きょうだい児への支援も盛り込んでいくのは負担ではないか。 ・きょうだい児を育てた経験として、きょうだいがみはら園で楽しく通っていることを実感できるように、きょうだいても園に来る機会が持てるとよい。 ・きょうだい児同士、保護者で交流が持てるとよい。 ・地域とのつながりは、特性などもあり難しさを感じてしまうと思うが、広見公園に散歩に行った時に、公園に来ている人に挨拶をするだけでも地域とつながっていることになると思う。